

都内主要繁華街における 滞留人口モニタリング

東京都医学総合研究所
社会健康医学研究センター

東京都内・主要繁華街 滞留人口モニタリング (2月13日までのデータ分析：要点)

【直近の繁華街滞留人口の状況】

- 夜間滞留人口：夜間滞留人口（18-24時）は、減少傾向が続いており（前週比：1.5% 減）、昨年末の高水準に比べると 43.3 % 減少。昨年同時期の緊急事態宣言中の平均水準を大きく下回る。ただし、ハイリスクな深夜帯（22-24時）の滞留人口については、小幅ながら増加に転じており（特に若年層）、今後の感染状況への影響を注視する必要がある。
- 昼間滞留人口：前週から減少（前週比3.2%減）。昨年末の高水準に比べると 21.6 % 減少。
- 夜間滞留人口・世代別占有率：若年層の割合が増加し始めている。特に、ハイリスクな深夜帯の若年層の増加が顕著。

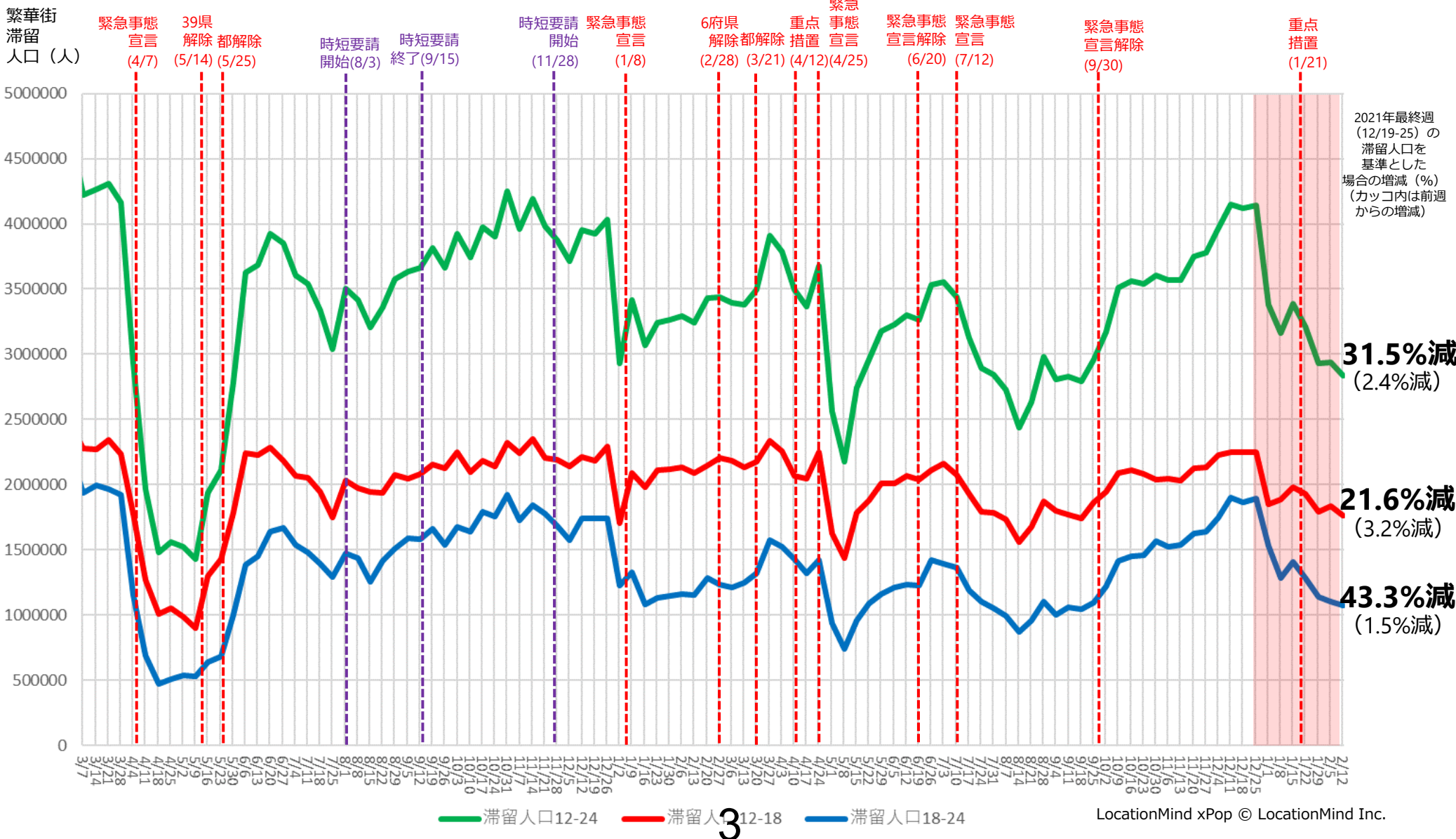
【ステイホーム指標】

- 居住地から5キロ圏内、3キロ圏内のステイホーム率は、58.9 %（前週比：2.5%増）、50.5 %（前週比：2.7%増）。重点措置適用後、3週連続でステイホーム率は上昇。直近の3連休は、自宅近くで過ごした人が多かった模様。

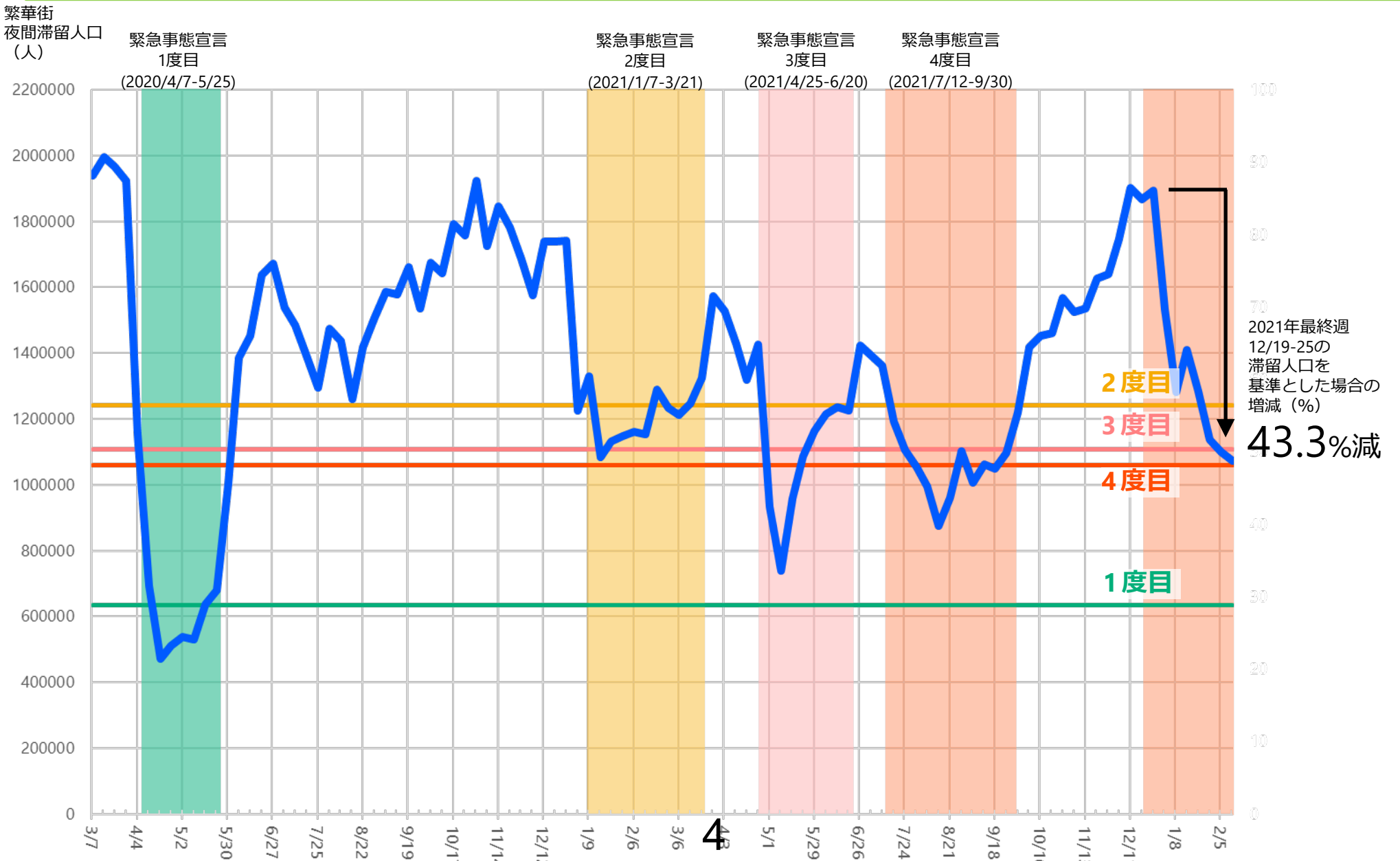
【大型ショッピングモール・フードコートの滞留人口】

- 全ての地域で減少。特に、都心部のフードコート滞留人口の減少が顕著。不要不急の外出を控えている人が多い模様。

時間帯別主要繁華街滞留人口の推移（2020年3月1日～2022年2月12日）



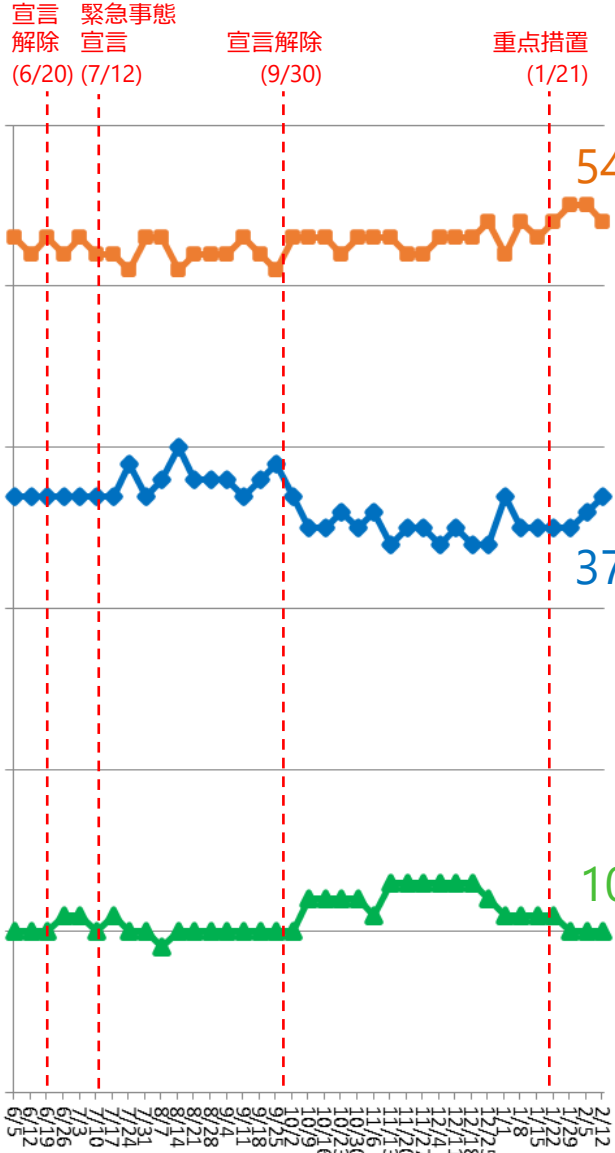
緊急事態宣言中の繁華街夜間滞留人口（18-24時）の平均水準 （2020年3月1日～2022年2月12日）



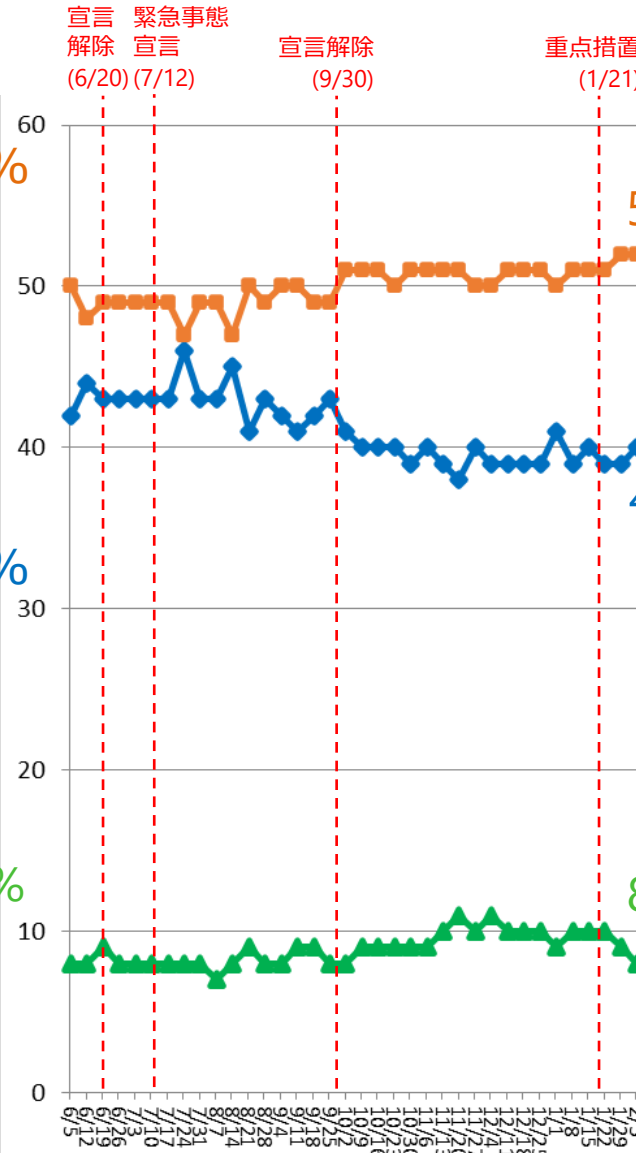
*対象繁華街は歌舞伎町・銀座コリドー街・渋谷センター街・上野仲町通り・新宿二丁目・池袋・六本木

都内主要繁華街における夜間滞留人口の年代別占有率 (2021年6月1日～2022年2月12日)

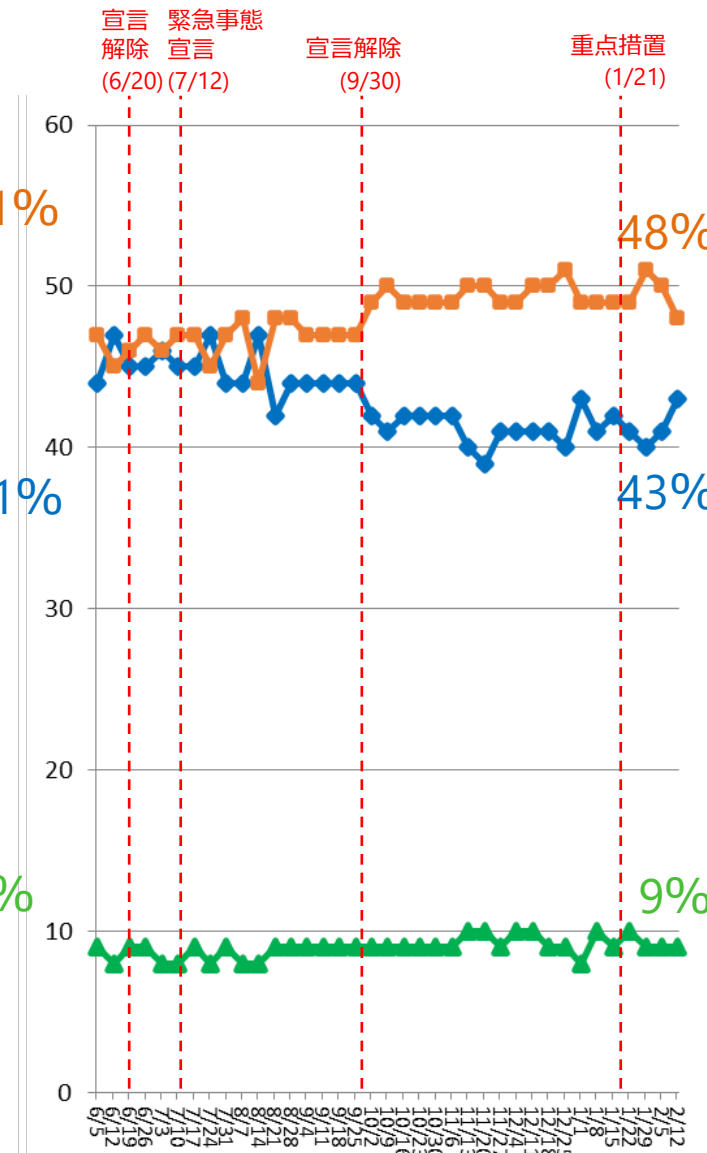
18時～20時



20～22時



22～24時



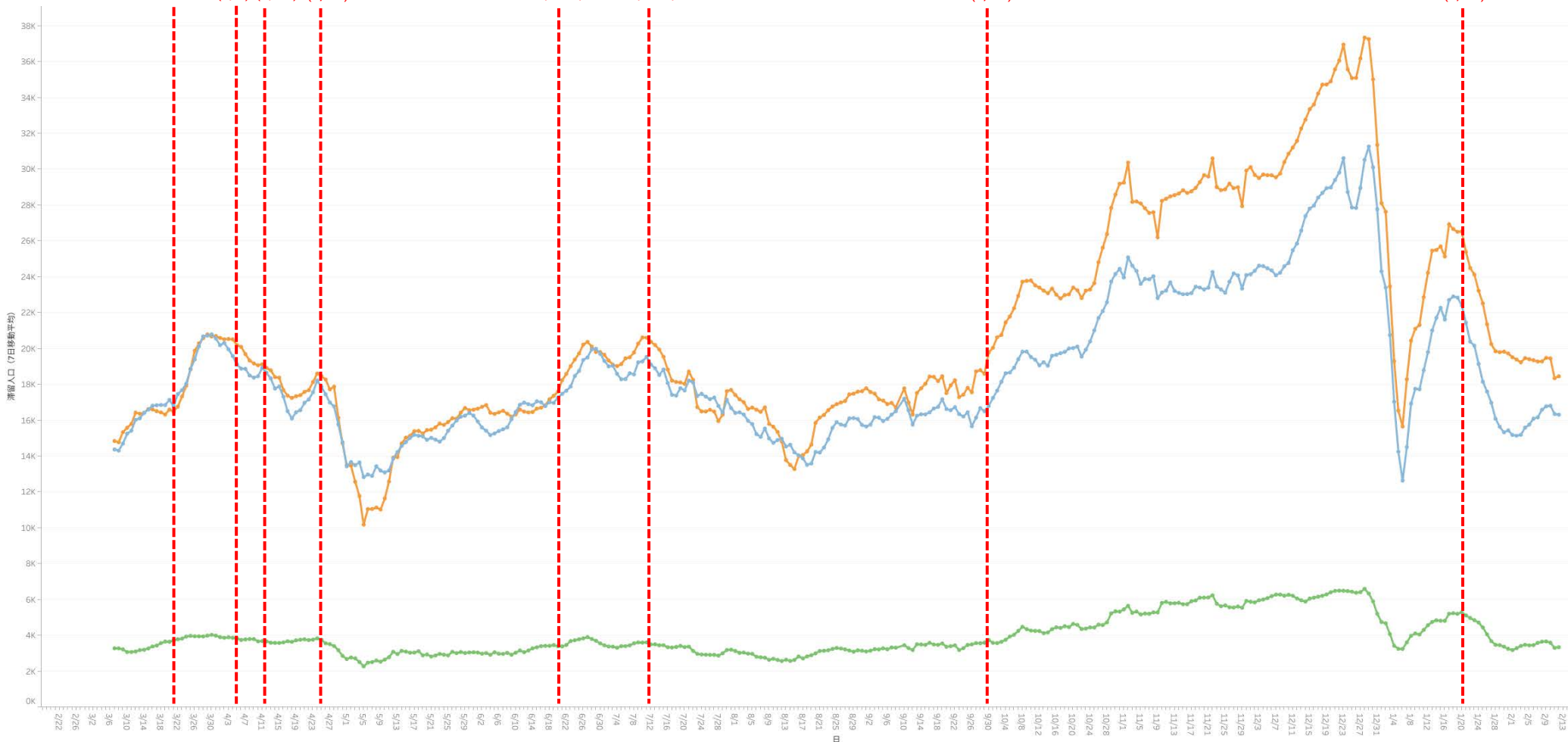
5

年齢別夜間滞留人口推移（22-24時・7日間移動平均：2021年3月7日～2022年2月12日）

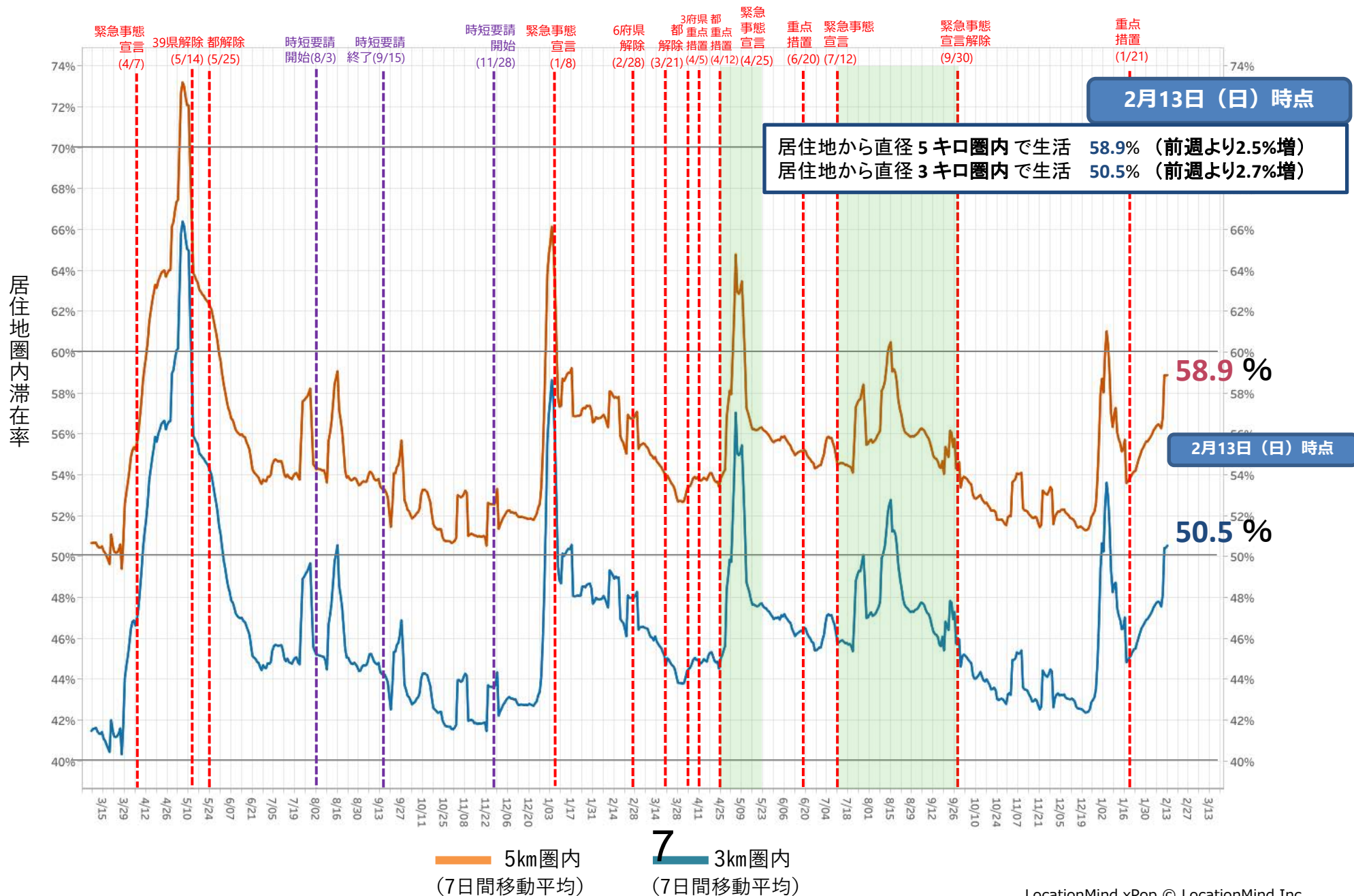
対象繁華街：上野・銀座・六本木・渋谷
新宿二丁目・歌舞伎町・池袋

繁華街
夜間滞留
人口（人）

都解除 (3/21)
3府県都重点措置 (4/5)
重点措置 (4/12)
緊急事態宣言 (4/25)
重点措置 (6/20)
緊急事態宣言 (7/12)
緊急事態宣言解除 (9/30)
重点措置 (1/21)



ステイホーム指標（2020年3月1日～2022年2月13日）：東京都内全域



都内大型ショッピングセンター内のフードコート滞留人口推移

地域別：2020.1.12-2022.2.13：10-19時（モニタリング対象28施設）



ハイリスクな時間帯の繁華街滞留人口を正確にとらえる

- GPSの移動パターンから**主要繁華街に遊興目的で**

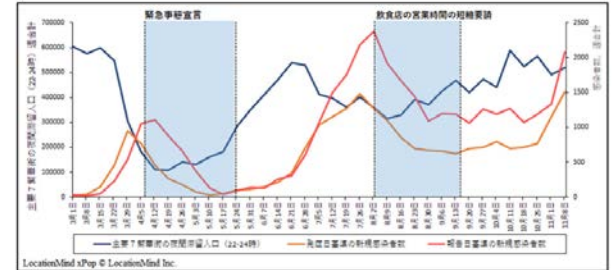
移動・滞留したデータを抽出 ※

- ハイリスクな時間帯の滞留人口量を
1時間単位で推定(500mメッシュ単位)

- LocationMind ⇒ 都医学研

- 夜間滞留人口データとその後の

新規感染者数、実効再生産数との関連が報告されている ※※



※GPS移動パターンから職場と自宅の場所を推定した後、職場・自宅以外の15分以上の滞留をレジャー目的としてカウント

LocationMind xPopのデータは、NTTドコモが提供するアプリケーションサービス「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。位置情報は最短5分ごとに測位されるGPSデータ(緯度経度情報)であり、個人を特定する情報は含まれない。

※※ Nakanishi M, Shibasaki R, Yamasaki S, Miyazawa S, Usami S, Nishiura H, Nishida A. On-site Dining in Tokyo During the COVID-19 Pandemic: Time Series Analysis Using Mobile Phone Location Data. *JMIR mHealth and uHealth*, 2021